

こうふじょうあとししがきいじかんりじぎょう
史跡甲府城跡石垣維持管理事業

史跡甲府城跡は、武田氏滅亡後の戦国時代末期に築城された城郭の跡です。豊臣秀吉の時代に甲斐国を治めていた浅野氏が完成させたと考えられています。

城内には築城当時の石垣が良好に残っており、約6haが国の史跡に指定されています。

甲府城跡の石垣の積み方は、石をほとんど加工せずに積んでいく「野面積み」とよばれるものです。これは、全国のお城の中でも、特に古い時期のもので、貴重な文化財です。

甲府城跡では、石垣の点検調査を石垣維持管理事業として実施し、400年以上前につくられた石垣の長寿命化を図っています。



点検作業風景

資料普及・活用事業

山梨県埋蔵文化財センターでは、甲府城跡や銚子塚古墳などの史跡や、発掘調査で見つかった土器・石器などの出土品を活用し、県民の皆様にも文化財に親しんでもらう活動を行っています。

史跡を舞台に、価値を伝えるための説明会に加えて、鬼ごっこやお祭りなど、子どもたちが楽しみながら学ぶイベントも実施しています。また、小中学校を中心に本物の「縄文土器」や「弥生土器」などを貸し出し、児童・生徒たちが実際に考古資料に触るなどの体験を通して、文化財をより身近に感じることが出来る機会を作っています。

さらに当センターでは、史跡や考古資料についての研究を行い、その成果をイベントや広報紙などの題材に取り上げ、最新の研究成果を紹介しています。



古墳時代の遺物に触れる体験



マチナカ博物館での拓本体験



甲府城で鬼ごっこ！



石垣つめる君で石積み体験